

ブラザー工業の自社株買い戦略と株価動向

5つの視点からの深掘り分析

日経新聞「もがくブラザー、自社株買いでも株価上がらず」
投資家はその効果を慎重に見極め始めている

本プレゼンテーションの構成・分析視点

- 1 ブラザー工業の自社株買い戦略の評価**
中期経営計画「CS B2027」における株主還元策と成長投資のバランス
- 2 株価が上がらなかった要因の分析**
自社株買い発表後も株価低迷・業績見通しと市場環境要因
- 3 他社との比較（キヤノン、セイコーエプソンなど）**
同業他社の株主還元策との規模・効果の比較検証
- 4 投資家と企業の意識のギャップに関する議論**
還元策の評価・資金運用に関する認識の相違とその影響
- 5 自社株買いと成長投資のバランスに関する提言**
株主価値向上の本質と資本政策における今後の方向性

視点1 | ブラザー工業の自社株買い戦略の評価

中期経営計画「CS B2027」の株主還元・成長投資戦略

2025年3月発表の中計では、3年間で**600億円の自社株買い**と**2,000億円の成長投資**を並行して実施する方針を明示



財務目標

売上収益1兆円、営業利益1,000億円、ROE10%を目標



株主還元強化

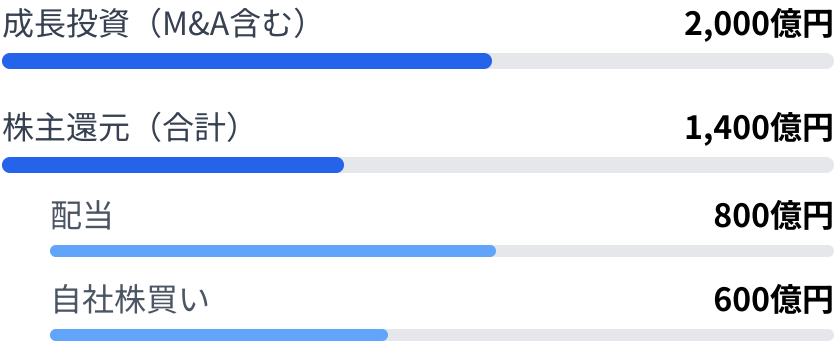
3年間で総額1,400億円の還元（配当800億円＋自社株買い600億円）



バランス重視型戦略

株主還元と成長投資を両立する均衡の取れたアプローチ

資金配分計画（3年間）



市場の評価

「株主還元と成長投資のバランスを取ったアプローチであり、その妥当性は概ね評価できる。規模としても過去の同社還元策と比べ大幅な強化」

「発表時の市場反応は限定的で、実効性に懐疑的な見方も」

視点2 | 株価が上がらなかった要因

自社株買い発表による通常の株価反応と実際の動き

ブラザー工業は**2025年5月9日**に発表（発行済株式数4.3%=200億円分）後、株価が**約5%下落**し、その後も回復せず



業績見通しの失望感

2026年3月期予想が市場予想に届かず、純利益が前期比わずか増



他社と比べ見劣りする規模感

キヤノン（各1,000億円級）やセイコーエプソン（5.1%=300億円）より小規模

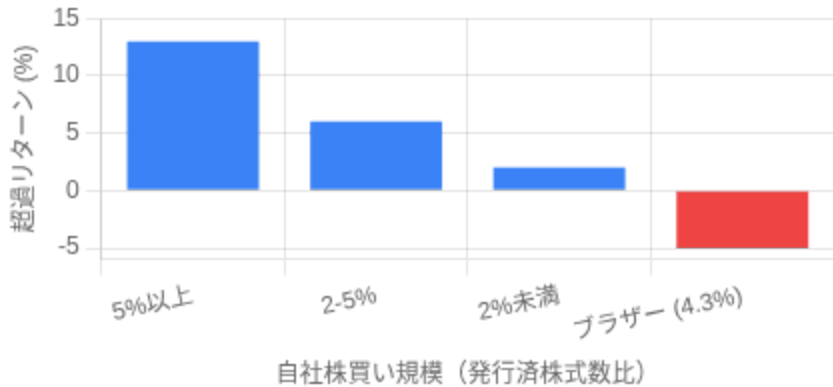


投資家の慎重な姿勢

「小規模な還元策はアピール目的」との見方、本質的な企業価値向上への懷疑

自社株買い規模と株価効果の関係

SMBC日興証券・伊藤桂一氏調査より



自社株買い発表後100営業日の超過リターン平均

市場環境の変化

「自社株買い=株高」が単純に成り立たなくなった市場環境

「規模・タイミング・情報開示の質」が総合的に評価される時代へ

ブラザー工業の自社株買い

規模：	4.3%・200億円
市場期待：	+6%程度の株価効果
実際：	約5%下落

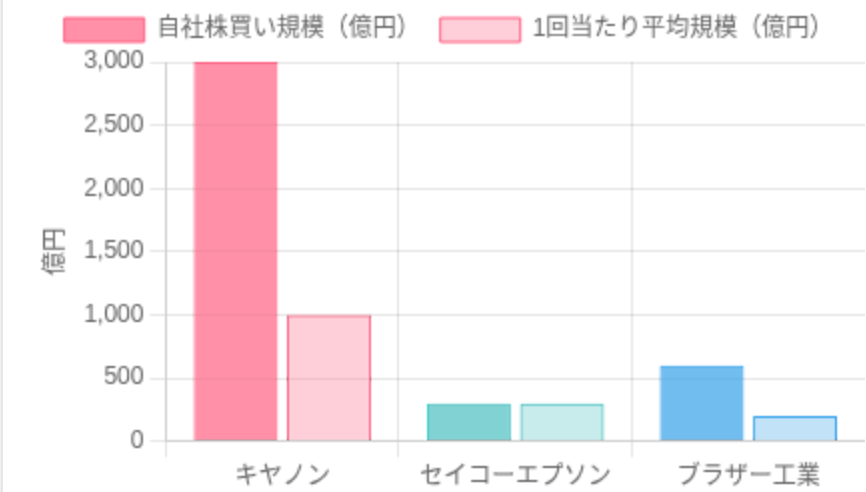
視点3 | 他社との比較（キヤノン、セイコーエプソン等）

大手競合と比較した自社株買い戦略の位置づけ

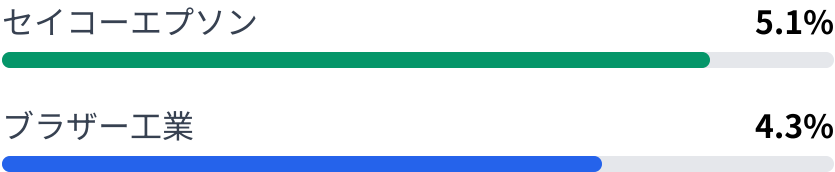
ブラザー工業の自社株買い（200億円・4.3%）は中堅企業として規模感がある一方、業界大手の積極策と比較すると目立ちにくい状況

	キヤノン 2025年だけで3回・各 1,000億円 （計3,000億円）を実施	📈 高評価
	セイコーエプソン 2024年に発行済株式数の 5.1% =約300億円規模を実施	📈 好反応
	ブラザー工業 2025年5月に発行済株式数の 4.3% =約200億円を決議	📉 反応限定的

自社株買い規模の比較（2024-2025年）



発行済株式数に対する比率



SMBC日興証券の調査によると：

- 発行済株式数の5%以上の場合、100営業日後の超過リターンは+13%
- 2%以上5%未満では+6%

視点4 | 投資家と企業の意識ギャップ

生命保険協会2024年度調査より明らかになった認識ギャップ

企業側と投資家側の認識に大きな乖離があり、これが市場における自社株買い施策の評価にも影響

還元策の説明について

企業側：「還元策の説明を十分にしている」 48%

投資家側：「企業の説明が十分」 0%

手元資金の水準認識

企業側：「手元資金は適正水準」 67%

投資家側：「企業の手元資金は多すぎる」 82%

対話ギャップが還元策効果を阻害

- 「投資家は情報開示や資本効率向上に強い不満」
- 「経営側は自社策に満足感・正当性を認識」

証券関係者の見解

"海外IRで投資家の声を聞いた経営者がようやく自社株買いに動く受動的事例もあり、本心で向き合わない限り市場に響かない"

ギャップ解消の鍵：
「企業側が積極的・継続的に株主と対話し資本政策・成長戦略を説明し、投資家側も企業の成長投資など長期視点をもって議論する」

視点5 | 自社株買いと成長投資のバランスと提言

経済産業省「価値創造経営小委員会」2025年5月中間報告

「**自社株買いよりも魅力的な成長投資こそ経営者の役割**」と明言、成長投資の重要性が強調されています



バランス戦略の重要性

成長投資には時間とリスクがあり、短期的な株主還元とのバランスが求められる



ブラザー工業のアプローチ

「成長投資2,000億円＋自社株買い600億円」という配分はバランス型戦略の一つの模範例

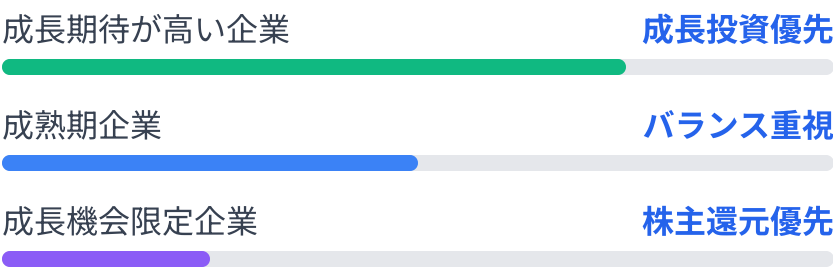
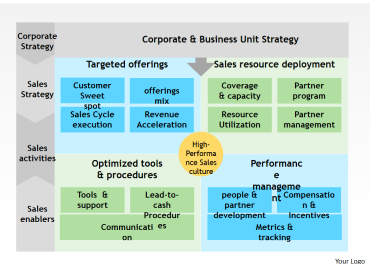


未来への提言

企業は成長機会を最大限追求し余剰資金で還元、投資家は短期・長期視点のバランスを

バランス型資金配分の評価

ビジネス戦略フレームワーク



専門家の見解

「自社株買いに資金を使うのはもったいない。成長投資へ振り向けるべき」（アストナリング・アドバイザー三瓶氏）

「実際に成果に結びつけることが重要で、成長投資を疎かにし還元だけ行うなら効果は限定的」

『成長と還元のバランスが、持続的企業価値向上の鍵』

総合的な結論と今後の示唆

企業価値向上と株主還元の新たな基準

日本企業の自社株買いが「ニューノーマル化」する中で、**規模・説明・実効性がより厳しく問われる時代**へと移行しています



株主還元と成長戦略のバランス

自社株買いと成長投資の両立が新たな評価基準に



市場評価の変化

業績見通しが弱い場合、還元策だけでは株価上昇に限界



対話と情報開示の重要性

企業・投資家間の認識ギャップを埋める継続的対話が不可欠

ブラザー工業への提言

- 成長戦略の具体化と説明強化
- 投資家との対話チャネル拡充
- 業界内でより競争力のある規模・頻度の還元策検討
- 中期経営目標達成への道筋を明確化

持続的企業価値向上の鍵

